



令和3年5月1日現在
総世帯数 1,402世帯
総人口 2,518人
男 1,197人
女 1,321人

子どもって若さずすねー!

中条東第一町会
丸山 直道

数年前から松本市のシルバークラブとして郊外の保育園へ出掛けて子どもたちと遊んだり、給食を食べたりしています。いわゆる「おじいさん先生」というやつで、たくさんさんの可愛い孫に囲まれているようなありがたいう時間を過ごさせてもらっています。

保育園では二歳から六歳くらいの子とも付き合っています。よく子どもに何歳かと聞かれますが、彼らの十倍以上の数字を説明するのはとても難しく、私が何歳なのかはよく理解することは難しいようです。ですから自分とは別の生き物を見るように「なんで先生は髪の毛がないの?」とか、「なぜ手のひらがツルツルじゃあなくてシワシワなの?」など不思議そうに聞いてきますし、観察するためににも触りたくてしょうがないようです。

あべこべに子どもは本当に若いです(当たり前)。みずみずしく新鮮な感覚で精一杯元気に過ごしています。忸度など無関係でストレートに生きています。疲れを知らずいつも走り回り、苟(ゆる)のように日々成長しているわけです。こうした素敵な子どもたちから、上から目線で「子どもだから」とか「子どものくせに」となどは決して言えないなど肝に銘じています。子どもをよく見て、子どもの声や訴えに真剣に耳を傾けることで、子どもとの距離が縮まり、仲良くなれたなあと感じることができた時は本当に最高の喜びです。

子どもの持つ「若さ」とは何だろうか?と考えていたところ、柳家小三治師の古い著書「落語家論」にこんな文章を見つけました。『若いってえのは何だろう。この先、まだ何かあるかもしれないぞ。今まで出逢えなかった素晴らしきものに、あしたは出逢える

かもしれないぞ。…と、明日に胸がふくらむむひとは、若いってことじゃなくかしら。』子どもとかけっこしても絶対に勝てませんが、気分だけでも子どものようなみずみずしさや師匠の言う「若いってこと」を目指してこれからは過(あや)せたら嬉しい限りです。保育園で子どもたちからたくさん貰っています。子どももってかけがえない存在ですから、大切にしたいものです。



ペットについての雑考

中条東第一町会
井野根 修

最近よく見る動物愛護協会のテレビコマーシャルがあります。アニメーション動画で母親

と娘が登場して「親切な人にみつけてもらってね」と言いながら犬を捨てるシーン。すかさず「優しい子に聞こえてもこれは犯罪者のせりふです。どんな理由があろうと、どんなに心を痛めようと動物を捨てること、虐待することとは犯罪です」というナレーションが入ります。

なんだか美談のように描かれています。尊い命を捨てるシーン。ナレーションを聞いて、ああ、そうか、と考えるきっかけを与えてもらったように感じました。

私たち夫婦が犬を飼い始めたのは結婚してすぐでした。その後、約40年間ずうっと犬と一緒に、10年経った頃から小型犬は妻が、大型犬は私かと分担を決めて2頭飼うようになり、多い時には3頭の世話をしていることもありました。

そんな風でしたので、2年前に18歳でシベリアンハスキー犬が亡くなり、近頃では、『また、大きな犬が飼いたい!』という欲求と、『僕は今年で70歳になる。今度飼う犬が18年生きるとして、僕は生きていられるだろうか』との思いで迷っていました。その私が『18年後といえば

88歳。僕が先に逝ってしまつたら残された犬が可哀想。飼うのはよそつ』と結論を出したのは前述したコマーシャルのお陰だと感謝しています。今は、5月で11歳になるミニチュアシュナウザーの女の子が長生きしてくれることを願っています。そのためにはその子の健康管理が大事で、散歩のたびの排便チェックが一番の方法だと思つのですが、散歩コースにしょっちゅう落ちて他犬の排便を片付けながら首を傾げている毎日です。マナーを守ってペットライフを楽しもうと思いま



